

キャリア通信

キャリア開発



新年明けましておめでとうございます！本格的な冬到来！インフルエンザも猛威を振るっていますが、いかがお過ごしですか。能登半島地震から1年が経過しました。復興に向け皆が力を合わせています。一日も早く環境が整い、被災地の皆様に笑顔が戻ることを願っています。研修センターでは今年度もたくさん情報をお届けいたします。

2025年1月

富山赤十字病院



研修センター・看護部

Vol.118

消防学校での救急隊員への講義・演習 12月3日(火)

今年も消防学校に出向き、救命救急士を目指す消防士の方々に、要救助者に看護の視点を活かした対応の基本を伝授してきました。演習では、高齢者体験や移動の技術を体験しました。市民の安全を守る役割を担う消防士達は、キャリアアップを目指し真剣に取り組んでいました。



緩和大社！



緩和治療センターに患者さんの開運を祈願して、手作りの立派な鳥居が設置されました。皆で手を合わせ、お参りやおみくじを引いて楽しみました。

クリスマスキャンドルサービス:12月24日

クリスマスイブ、各病棟で恒例のキャンドルサービスが行われました。クリスマスソングを流しながら、スタッフとサンタ役の医師で患者さんのお部屋を訪室し、闘病意欲を高めてもらえるようクリスマスメッセージカードを渡しました。患者さんの嬉しそうな顔が印象的でした。



第34回富山県看護研究学会:12月21日(土)



今年度、「手と目で感じる看護を語り継ごう～人生100年時代を支えるために～」をテーマに、第34回富山県看護研究学会がオーバードホールで開催されました。当院からは、6階西病棟が「治療継続困難と伝えられた中年期の肺癌患者との関りで病棟看護師が重視すること」というテーマで発表し、1年間の努力の成果を伝えました。素晴らしいですね！特別講演では、元日本赤十字看護大学教員、日本で・あて推進協会の水野 陽子氏が、触れて・見て・心の奥に気づく「て・あて」の看護の基本について話され、反響を呼びました。

発表者たちの声:

by平井・金井・寺林・松井

患者さんの非言語的メッセージに気づき、対応することが不安の軽減につながると学びました。

患者さんの小さな行動からメッセージをくみ取り、タッチングや視線を合わせて話を聞くことで、患者さんの安心につながると学びました。



認知症患者さんは心の内を言葉で表現することが難しく、身振りや視線で表現していると知りました。関心を向け、よく知ろうとすることを意識したいです。

学会は、学びの共有の場であり、他病院の看護の実際を知る良い機会でした。他病院との共通点は、専門的な立場で患者・家族の思いや希望に寄り添いより良い看護を提供している点でした。

BLS・AED研修:令和7年1月～3月

5年毎に行われるBLS・AED全職員必須研修がスタートしました。今年度は、300名以上の方に受講してもらう予定です。胸骨圧迫、人工呼吸、AEDそれぞれの担当に分かれ、救命の手順に沿って、実際さながらの演習を行っています。



深部静脈血栓症予防研修:12月10日(火)

就職後早期に手術患者に対し、弾性ストッキングの正しい取り扱いができるように、「深部静脈血栓症予防研修」を新人研修に組み入れました。手術看護認定看護師より血流障害、皮膚障害の目的と弾性ストッキングの装着を学びました。



正しい装着は非常に難しく、研修生は苦闘していましたが、ストッキング着脱のコツをつかんでいました！